

## 潟上市総合教育会議 会議録

開催日時	平成28年11月15日（火） 13時27分～13時50分
場 所	潟上市役所 3階 第1・第2会議室
案件	(1) 平成29年度予算編成に係る協議及び調整について (2) その他
出席者	(会議構成員) 市 長 石川 光男 教育委員会 加藤 裕一 委員長 菅原 俊 委員長職務代行者 丸谷 昇 委員 肥田野 耕二 教育長  (事務局) 教育部長 菅原 剛、教育総務課長 渋谷 一春、学校教育課長 高桑 博幸、 幼児教育課長 宮崎 久春、総務部長 栗山 隆昌、総務課長 米谷 裕二
欠席者	鈴木 政亞 委員
記録者	総務部総務課行政情報班

1. 開 会
2. 市長あいさつ
3. 教育委員長あいさつ
4. 案 件
  - (1) 平成29年度予算編成に係る協議及び調整について
  - (2) その他
5. 閉 会

### 会議結果概要

#### ◆ 平成29年度予算編成に係る協議及び調整について

- ・ 教育委員会側から市長に対し、平成29年度予算に係る要望事項として次の2点が挙げられた。
  - ①教育委員の東北地区研修へ毎年参加するための予算について(現在は2, 3年に1回の参加)
  - ②待機児童解消のための保育士確保の対策に係る予算について
- ・ 市長は、①については要望を受けてなるべく予算に反映させたいとし、②については事務局に現状や詳細について調査・研究し結果を伝えるよう指示をした。

### 会議内容

米谷総務課長（事務局）：どうもお疲れさまでございます。定刻前ですけれども、本日出席を予定している皆さんがお揃いですので、今年度1回目の総合教育会議を始めさせていただきます。本日用意により、鈴木政亞委員から欠席のご連絡をいただいております。

それでは、初めに、石川市長がごあいさつを申し上げます。

**石川市長**：皆さんこんにちは。今日はお忙しいところ、教育委員の皆様には、本年度1回目の潟上市総合教育会議にご出席をいただきましてありがとうございます。また、加藤委員長をはじめ委員の皆様には、平素から本市の教育行政にご尽力をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

さて、昨年度は総合教育会議を3回にわたって開催し、主に教育大綱の策定に向けた協議・調整を行ってまいりました。委員の皆様からは、貴重なご意見を多数お寄せいただき、大変充実した内容を盛り込むことができたと思っております。3月開催のこの会議の場において全会一致で成案として決定いただきましたものを「潟上市教育大綱」として定め、公表しております。改めまして、委員の皆様のお力添えに感謝を申し上げる次第であります。

本日は、今年度1回目の会議でございますが、来年度の予算を編成するにあたり、教育委員会との協議・調整を行う場として開催いたしました。潟上市の教育行政をより良い方向に進めていくため、実りのある意見交換を行いたいと考えておりますので、委員の皆様におかれましては、ぜひ忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます、簡単ではございますが、あいさついたします。

**米谷総務課長（事務局）**：続きまして、加藤教育委員長からごあいさつをお願いいたします。

**加藤教育委員長**：潟上市教育のあるべき姿を探求する潟上市総合教育会議が、本年度も関係者ご一同ご臨席のもと本日開催されますことを非常にうれしく思います。また、市当局におかれましては、日ごろ教育施設の整備にハード・ソフト両面にわたって特段のご配慮を賜っておりますことにこの場を借りて厚く御礼を申し上げます。

市長のごあいさつにもありましたが、昨年3回の協議を経て教育大綱を策定いたしました。現在の潟上市の教育行政及び教育活動は、その大綱、そして市の総合計画に則った形で推進されております。最も大きい事務事業であります学校教育に関しまして、教育委員並びに教育委員会の学校訪問という形で6月から7月にかけて市内の3中学校6小学校を訪問させていただきました。その結果、全学校において順調に学校経営が進んでいるなということを感じ取ることができました。一方で、課題がまったくないわけでもなくて、ICT機器を活用した授業改善などは、まだ緒に就いたばかりかなということで、この後研究の余地があるのではないかなと感じたりしてございます。

本日は、次年度予算編成に向けた協議ということでございますが、潟上市教育充実のために体制のより一層の強化が図られるような会議になりますことを念じ申し上げまして、私からの挨拶いたします。よろしく申し上げます。

**米谷総務課長（事務局）**：ありがとうございます。

潟上市総合教育会議設置要綱第4条第1項により総合教育会議は市長が招集し、議長となるとしております。ここからの進行は、議長である市長をお願いいたします。それでは市長、お願いします。

**石川市長（議長）**：では、早速案件の協議に入らせていただきます。今回の案件は、平成29年度予算編成に係る協議及び調整についてであります。

先ほどごあいさつでも申し上げましたとおり、本日の会議は、来年度の予算を編成するにあたり、教育委員会と協議・調整を行う場として開催いたしましたので、協議等に入る前に、平成29年度当初予算編成方針の概要について、事務局から説明をさせます。

**栗山総務部長（事務局）**：はい。それでは私から平成29年度当初予算編成方針の概要についてお話をさせていただきます。本日午前中、朝9時過ぎですけれども、市長から予算訓示をしていただきまして、その後幹部職員に対して予算編成方針の説明を行ったところであり、その後抜粋しながらお話をさせていただきます。

歳入につきましては、市税を含む自主財源の伸びは期待できず、また、地方交付税は合併による優遇措置の終了により確実に減少します。歳出では事務的経費のうち、大型事業の実施により公債費が増加傾向にあるほか、社会保障関係費は引き続き増加する見込みであります。

中・長期の財政見通しにつきましては、歳出では学校の大規模改修や生活関連社会資本整備など大型事業が予定されており、歳入では普通交付税の合併による優遇措置が終了し平成27年度から5年間で段階的に削減されるため、最終的には8億円程度の歳出削減が必要となります。

このため、積極的に財源の確保を図り、歳出の抑制に厳しく取り組むとともに、様々な行政課題を着実に解決しつつも、市財政が危機的な状況に陥ることがないように、職員一人一人が行政大綱を再確認し、行政評価の結果を的確に今後の行財政運営に反映していかなければなりません。

しかしながら、こうした厳しい財政状況の中にあっても、前期基本計画の2年目となる第2次潟上市総合計画に盛り込まれた諸施策を積極的に推進させ、市民の期待に十分に答えるものとしていかなければならないとしております。また、平成29年4月に任期満了に伴う市長選を控えていることから、平成29年度当初予算は骨格予算として編成し、補正予算において政策的経費を加えた肉付けを行い本予算を編成することとしております。ということで、概要としてお知らせいたします。以上です。

**石川市長（議長）**：今、事務局の説明が終わりました。協議に入らせていただきますが、来年度予算の編成にあたり、教育委員会としてのご意見をお伺いしたいと思っておりますので、教育委員会、何かありましたらよろしく申し上げます。

**加藤教育委員長**：市長、お願いいたします。

**石川市長（議長）**：はい。

**加藤教育委員長**：本会議に先立ちまして、教育委員会を開いて本日の協議事項に関しまして検討させていただきましたところ、2つのことについて今日はお願いを申し上げたいと存じます。1点目は、教育委員スキルアップのための研修についてということでございますが、世の中の変化が予想以上のスピードで進んでおりまして、教育が抱える課題も複雑化・多様化してきております。教育委員として当然人間的に成長していかなければいけないし、様々な情報収集に向けて研修に取り組まなくてはいけないわけですが、県単位での研修が年にだいたい4回程度ございます。私ども教育委員は、当然挙って毎回参加をするようにしておりますが、実は東北単位での研修というものも毎年持ち回りで開かれております。現在のところ2、3年に1回の参加という形になっておりますが、東北大会の研修というものは、東北にいる教育委員、6県の教育委員が挙って参加する機会でありまして、様々な情報交換の場でもあり、その土地土地の文化に触れ、その土地土地の中学生高校生がどういった活動をしているかということを実際目で見る大変重要な機会であります。可能でありましたら、毎年参加をして教育委員としての資質を高めていければなという声が上がっておりますので、これをひとつお願いしたいと存じます。

2つ目は待機児童解消に向けての保育士確保の対策、これを可能であれば、もう少し強化していただ

けないものかなど。雇用情勢が数年前と大きく変わって、保育士確保が非常に難しいという現状があります。労働力の質の低下というものも非常に危惧されますが、何らかの形で安定した保育士確保ができないものかなどということで、その点につきましてもぜひ、市当局にお願いしたいなということで教育委員の方からのお願い2点でございます。

石川市長（議長）：はい。教育委員会からの要望、お願いとして2つだと。研修は隔年参加しているものを通年にしてほしいということですね。あとは待機児童について。

この研修については、隔年を毎年・通年にすると、1回の研修予算はどれくらいかかるのですか。

渋谷教育総務課長（事務局）：昨年は青森に行っておりますが、12万円ほどです。

石川市長（議長）：東北6県の研修で。

渋谷教育総務課長（事務局）：はい、そうです。

石川市長（議長）：1人あたりで、ですか。

渋谷教育総務課長（事務局）：全体です。5人で一泊です。

石川市長（議長）：必要な予算はそのくらいなのですね。委員長がお話されたこの件に関しては、査定がありますので、これはもう骨格予算とは関係ないと思いますので、なるべく委員長の要望通りにしたいと思います。

加藤教育委員長：ありがとうございます。

石川市長（議長）：それから、待機児童についてはなかなか難しい状況で、いつも人事採用になると教育長と私の意見が違うと。教育長はいつも3人か4人保育士を採用してくださいというような、分捕り合戦が始まるわけですが、そうはいつでも、一般職員の割合が10のうち8、7とすれば、保育士、社会福祉士とかいろいろな資格が必要な場合もありますが、なかなか集まらないこともあります。今年は、一般職員で1次試験合格の方が別のところを受けて辞退しましたが、その後は当然一般職からあげるのが普通ですけれども、今回は保育士に向けた、というようなこともあります。今のところ保育士2人。いずれ、待機児童については、保育士の待遇改善も一生懸命やってきている。要望があるのは、通勤手当ではないでしょうか。そんな要望はないですか。通勤手当が欲しいという話を聞くことも多かったが、今もそんな要望がないですか。

宮崎幼児教育課長（事務局）：今も変わりません。

石川市長（議長）：これもなかなか難しいんだよな。他の市町村はどうですか。通勤手当を出していないですか。

宮崎幼児教育課長（事務局）：出しているところはあります。ただ、潟上市がトータルで単価的には1時

間時給1,000円ということで他市を超えておりますので、他市町村さんとの金額の比較だけでいえば潟上市は多い状況ですが、通勤手当という部分でネックになっているところが現状としてあります。

石川市長（議長）：時給については26年度から820円、960円、1,000円と上げてきて、29年度はどれくらいですか。

宮崎幼児教育課長（事務局）：今も1,000円です。

石川市長（議長）：欲を言えば、保育士の再任用をもっとやってくれればいいんだけど。退職した人。疲れるんだろうな。

肥田野教育長：OBについては、再任用制度そのものは使ってないけれども、応援していただきたいということで、OBは確保、その都度1人2人を呼びながら、ということだけれども、今のところ4人くらいかな。

石川市長（議長）：OBでなくて、OGですね。

宮崎幼児教育課長（事務局）：ここ数年ですけれども、2年前に退職した先生2人は、アドバイザーという形で、再任用制度ではないですけれども、頑張っていたいております。

石川市長（議長）：アドバイザーであろうと何であろうと、保育園のために頑張ってくれているのは同じことです。ちなみに、市役所のOBなどは全部アドバイザーですね。専門員。難儀かけるかもしれないけれど、OGの人たちがやってくれたら一番いいんだよな。

栗山総務部長（事務局）：昨年今年と、手を挙げてもらっていますから。

石川市長（議長）：それはよかった。あと、時給は1,000円だと。今、待機児童は何人いるのですか。

肥田野教育長：待機児童11月1日現在で22人。0歳児。

石川市長（議長）：みんな0歳児ですか。0歳児というと、必要な保育士は0歳児3人に対して1人ですか。2人に1人ですか。

宮崎幼児教育課長（事務局）：3人に1人です。

石川市長（議長）：3人に1人とすると、あと7人保育士が必要ということですか。

肥田野教育長：ここが毎年のサイクルでなかなか厳しいです。

石川市長（議長）：こう言うのは叱られるかもしれないけれど、今一番待機児童が多いのは追分ですか。

宮崎幼児教育課長（事務局）：今一番多いのは…市長がおっしゃるとおり22人のうち、10人が追分になっています。

石川市長（議長）：そして？

肥田野教育長：あとは若竹が一桁で4とか、湖岸が3、二田が2とかです。

石川市長（議長）：各地ばらついているのですか。

肥田野教育長：ばらばらです。

石川市長（議長）：待機児童がいないところから職員をまわせないかと思ったが。

肥田野教育長：集中しているのは追分だけけれども、ばらばらっと出たり入ったりで。

石川市長（議長）：待機児童のことで新聞に載れば潟上だけが突出しているように感じることから、何かと言えば保育士の関係だと。それでは困る。せつかく住みやすさ、あるいは活力でマスコミ等で上位にランクされて、それなのに待機児童が多いとなると、非常に残念です。非常に残念です。保育所の定数は関係ないですか。

宮崎幼児教育課長（事務局）：定数は大丈夫です。

石川市長（議長）：0歳児、追分10人で、施設は間に合うのですか。

宮崎幼児教育課長（事務局）：追分で現状16人の0歳児が入っています。

石川市長（議長）：仮に保育士が全部いて、仮に今待機している10人を入れるとすれば、施設面で問題ないかということ。

宮崎幼児教育課長（事務局）：施設面でいうと、面積的には少しオーバーしてしまいます。

石川市長（議長）：それだとできない。そういうのは、市民に教えるべきではないか。全部やります、でも施設が間に合わないというのでは、話にならない。今のところ追分保育園でどのくらいできるかということ調べておくこと。

宮崎幼児教育課長（事務局）：はい。

石川市長（議長）：私が1人で話しているようなので、委員の皆さんも何か意見はないですか。先ほどの話に戻りますが、総務部長、各委員の研修は隔年でしたか。

栗山総務部長（事務局）：たいがい隔年です。

石川市長（議長）：議員だけが毎年なのですね。教育委員は5人ですからね。事の重要性を考えて画一的にはやってられないはずですからね。

栗山総務部長（事務局）：必ず隔年でなければならないというわけではないでしょうから。

石川市長（議長）：教育は大事ということで。かかる予算もそれほど多額ではないですし。あとはいいですか。丸谷委員、何かありませんか。

丸谷委員：事前に教育委員会として打ち合わせてきたことですので。委員長が皆の意見を集約してお話ししてくれました。

石川市長（議長）：研修旅行については、私が叶うように頑張ると言ったということで。待機児童については、現状を踏まえながら、なるべくならば保育士を確保するというので。わかりました。

丸谷委員：ちょっと気になったのは、追分地区の面積要件があるとすれば、これは大変な問題なので。箱モノがなければ。保育士を集めてきても入るところがないとすれば大変なので。そこは勉強していかないと。

石川市長（議長）：課題である協議内容はこれで終わった感じがいたしますので…その他ありますか、委員の皆さん。（発言なし）ないように感じますので、一応今日の案件は、会議はこれをもって終了させていただきます。ありがとうございました。

…せっかくの機会ですので、雑談でもいいので、何かあれば。まだ時間もあるから。

加藤教育委員長：市長、先ほどちょっとお話した、小中学校全校1年に1回まわるんですけども、市長も1日参加しませんか。来年から。中学校1校、小学校1校ぐらい。教育現場の生の姿をご覧になっていただいて。

石川市長（議長）：いいですね。普段は運動会や卒業式、入学式ぐらいしか行ったことがないですからね。

肥田野教育長：待機児童は予測不可能な部分もあるし、ちょっと難しい問題ですね。

石川市長（議長）：そういえば、この前どこかの市で、給食の野菜が高くて給食をやめたら、その市の市長が怒って何事だということでもた復活したんだけど、あの教育委員会のやり方は…。最初に市長に来なければいけないのではないかな。

栗山総務部長（事務局）：まさにこの総合教育会議というのが、この場でしっかりと意思の疎通を図っていれば、ああいうことにはならないんだろうなど。

石川市長（議長）：教育委員会が単独で「やめる」と。市の方は「何だ」と。「そんな不便はかけられない」ということで復活しろと。そうすれば行き着くところ、教育委員会が市長当局には何も話さないで独断で決めたと。これはもう新しい法律は何もならない、ということだ。

野菜が高ければ、献立表を考える先生たちが一生懸命知恵を絞ってやったらいいのにな。

丸谷委員：我々役所出身の人間からすればあり得ない、ああいうことは。市長に何も話さないでやろうというのは考えられない。

石川市長（議長）：制度的にはできないことだもの。

肥田野教育長：即決せずに、教育委員会はしっかり考えるべきだったと。

丸谷委員：財政へ予算の相談も必要だったでしょうし。

石川市長（議長）：今頃ああいうところがあるのだな。ところで、教育委員会の学校訪問というのは1日なのですか。

肥田野教育長：学校2つ、3つに分けて1日。

石川市長（議長）：授業参観なんていうのは、全部見るのですか。

菅原教育委員長職務代行者：授業参観は全クラスの授業を見ます。全部まわります。

石川市長（議長）：今日は午前中からやっているのですか。教育委員会は。

肥田野教育長：今日のための打合せは事前に済ませていましたので、この会議からです。

石川市長（議長）：そうですか。では、私はこれで失礼しますので、これで会議を閉じます。

（終了：13時50分）